◎米国内分断、米欧の亀裂深まる　　　　　　田中均・元外務審議官講演（中）

2026/05/20

◇米がＮＡＴＯから離れる可能性高い

　米国内の分断はさらに深刻化していくことになると思う。
この戦争を始める時のトランプのモチベーションというのは、ベネズエラに次いで、イラン（攻撃）でも、米政権の浮揚に資するという読みがあったからやった。

　ところが、結果的にイラン戦争はそうならなかった。トランプの支持率を下げた。そもそもイラン戦争に対する反対論が強くなってきた。中間選挙にプラスになるだろうという望みを打ち砕いたのは、イランが石油を人質に取ったからだ。米国の選挙は経済だ。これから相当インフレが高じる見通しの中で、さらに戦争をやるわけにはいかないと思う。イラン戦争が続けば続くほど、米国の中間選挙に向け共和党は支持を失っていくと思う。

　イラン戦争が続く限り、今年１１月以降のトランプはレームダックになる。国内の求心力を失う。米国の分断を収めるような有力な指導者が出て来る見通しは、今の米国にはほとんどない。この戦争の結果、米国の分断はさらに進み、米国の政治は混迷し、米国自身が敗者になるということだと思う。

　トランプの米国第一政策と欧州は相いれない。トランプになって、関税、グリーンランド、ウクライナ問題、米欧関係はけっこう抜き差しならないところに来た。イラン戦争は致命的に米欧関係を悪くする大きな材料だ。たぶんイラン戦争が（米欧関係悪化に）とどめを刺す。米国が北大西洋条約機構（ＮＡＴＯ）から離れる可能性は高い。

な依存を脱するということ。ＧＤＰ５％の防衛費を目標にしようとしている。欧州の誰と話しても、掛け声としてはそうだが、米国への依存を脱却するためには、現実には２０年、３０年かかるという。欧州は、米国の戦争にＮＡＴＯとして加わってきた。欧州の指導者にとってベストシナリオは、米国はつなぎ留めなければならないが、その間、着々と欧州の自律性を高めていくことだ。トランプは欧州を見捨てるだろう。

中東の作戦で米国の航空機、艦船が欧州を経由したり基地を使うことに、スペイン、イタリア、英国はノーと言った。今ここで突き付けられている課題というのは、同盟国が間違った戦争をやっている時に、それを助けるのか否かということ。助けないということが、基本的に同盟関係を崩すことはないが、欧州がイラン戦争で助けなかったのでトランプは激高し、それぞれの国に意地悪している。米軍の飛行機の通過、基地提供を認めたのはドイツだけだった。ところが、ドイツの首相は、イランの戦争で米国は屈辱を受けていると放言した。トランプは激高して、ドイツの基地から（駐留米兵）５０００人抜く（撤収する）と。

終わりの始まりかもしれない。私は、米欧関係は徹底的に亀裂していくだろうと思うし、ＮＡＴＯがＮＡＴＯとしての役割を果たさないとすら想定する。

◇ロシアと中国、相対的に有利な立場に

ロシアと中国は相対的に自分たちの立場を有利にしていると言える。
ロシアの石油が部分的に売れるし、制裁対象外にされている。石油価格の高騰により、ロシアの財政が豊かになっていく。ウクライナ戦争だけが問題という国際社会の目が変わってきた。米国も同じことやっているじゃないかという、バランスが出ている。

ロシアは「トランプ―プーチン」の関係において、自分たちの立場を有利にしようと動くと思う。今、ウクライナ戦争が終わる見通しは全くない。ウクライナも比較的に頑張っている。武器を自前で生産できる態勢をつくり、ロシアの領土をさらに拡大させてはいない。今の状況はどちらが勝っているか分からない。米国は中国のあと、ロシアと取り引きするだろう。（続く）

お知らせ一覧に戻る